Osaka University Knowledge Archive

Title	都市型アートフェスティバルの実践プログラム ：「神戸ビエンナーレ2013」のプロジェクトとマネージメント
Author(s)	大森, 正夫
Citation	デザイン理論. 2013, 61, p. 144-145
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/53572
rights	
Note	

Osaka University Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

Osaka University

都市型アートフェスティバルの実践プログラム
── 「神戸ビエンナーレ2013」のプロジェクトとマネージメント ──

大森正夫／京都嵯峨芸術大学

氾濫する情報の震源地が画一化する現在，地域アイデンティティーに責務はないのであろうか。そして，国際基準として蔓延したアート概念が日本の芸術文化に新たなる可能性を見出す事はないのであろうか。

阪神淡路大震災から10年を経たことを契機に，都市イメージの再生を願い立案した震災復興への最大規模の文化事業が「港で出合う芸術祭～神戸ビエンナーレ」であり，神戸という都市のもつ文化力を再認識・再評価することによって「芸術」と「まち」の未来を託して企画した事業である。

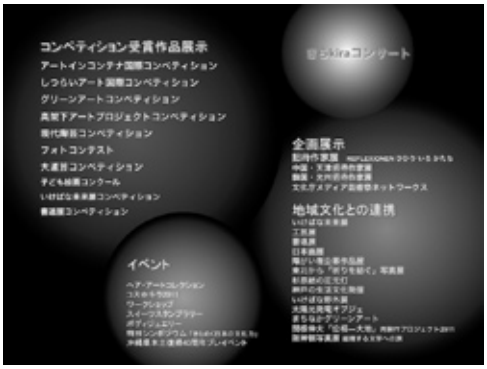
神戸ビエンナーレの開催趣旨は次の通りである。「神戸は，その地理的・歴史的条件により古くから陸海の交通の要衝として栄え，異文化交流の最先端として，多様な芸術文化の流入を体験し，現在に至るまで，その多様で重層な文化が根付き，共存して発展してきました。また，平成７年１月17日に発生した阪神・淡路大震災により傷ついた心を癒し，復興への勇気を与えてくれた芸術文化の感動は，市民にとって忘れえぬものとなっており，芸術文化は震災復興の活力となって大きな役割を果たしました。こうした神戸のまちの歴史・経験を踏まえ，震災後10年を機に文化を活かしたいきいきとした進化するまちづくりの基本理念として，平成16年12月４日に『神戸文化創生都市宣言』を行いました。神戸に芸術文化の力を結集して内外に発信する機会を設け，神戸の芸術文化の更なる振興を図るとともに，まちのにぎわい，活性化につなげる試みとして，２年に１度の芸術文化の祭典「神戸ビエンナーレ」を開催します。」

そこで，都市文化の創生プログラムとして企画運営している神戸ビエンナーレの事業展開について報告する。

１　本芸術祭における「地域」概念

環境づくりに最も大切なものは，場所（地域）と時代のアイデンティティーと考えている。そのために，他の芸術祭との協働，すなわち等質化した共通概念との同一化によってプログラムを組み立てるのではなく，両者を冷静に分析して立案することにした。

そこで，「神戸」と「日本」を独自の文化を内包し発信し続ける貴重な「地域」と捉え，地域と時代の要請に素直に対応する事業を提案した。



２　神戸らしい都市イメージの発信

神戸でこれまで培われてきた芸術文化活動に軸足を置いて展開することにより，生活文化に根付いた国際的で先進的な神戸のアイデンティティーを再認識し，神戸ブランドとして創造することを目指した。

3　芸術概念の拡張と若手作家の育成

多くの芸術祭が採用している一部の美術専門家による作家選抜展示ではなく，誰でもが応募できる「コンペティション形式」を主軸にすることにより，新たな分野やアーティストに発表の場を提供できた。

4　多種多様な芸術文化の交流・融合

様な芸術文化の流入により独自の文化都市を形成し発信してきた神戸の場合，既存の芸術領域を披露するだけではなく，新たな文化創生を目指すとともに地元文化と関係の深い分野の振興として次のようなジャンルをクローズアップすることにした。

a）日本のポップカルチャー，b）先端工学と伝統芸術，c）現代美術を担った地元作家，d）多様な地元市民の芸術活動，e）アートとしての認識が低かった分野。その結果，グリーンアート，おもちゃ，こども絵画，障がい者アート，ユニバーサルデザイン，スイーツデザイン，ヘアデザイン，ロボットメディア，いけばな，陶芸，書などから，まちかどアートなど，地域ぐるみでの連携・協賛事業に力を入れている。

5　術文化を活かしたまちづくり

神戸の街では他の都市に比しても美術品を身近に接することができる。そこで，これまでにないアートの可能性を試みる都市環境として，まちなかグリーンアートやまちかどコンサートなど，街の伝統を復活・創生できるようなプログラムも多く用意しているが，都市環境づくりのシステムとして定期継続開催可能な事務組織を市役所内に設けたことは本事業にとって非常に大きい。

6　地域の力，芸術の力

芸術概念および業界との関わり方，新ジャンルへの企画，地元との調整，運営組織・資金の組み立て方法など，提示した新たな芸術祭を定着発展させていくために今後取り組まなければならない課題は山積している。しかし，神戸ビエンナーレを開催した今，一つ一つの課題と向かい合いながら地域の力をアートの力で認証できる芸術文化事業が定着し，人々の中に開かれた意識が創造性とともに芽生えることを願っている。